

ひな鳥の育て方

A. ひな鳥の環境

挿し餌中は育雛箱(小さな水槽など)で飼育しましょう

- 挿し餌中は巣にいる時期です。ケージに移すと免疫低下を起こし、病気を招きます。
- 温度は 28~31℃厳守です。暑がって開口呼吸していたら下げましょう。
- 床はキッチンペーパー1枚敷くだけで OK です。くしゃくしゃにしたり、牧草、チップ、ワラ巢は止めましょう。
- 挿し餌時以外は暗くして、なるべく寝かせます。遊ぶと疲れて体調を崩しがちになるからです。
- ひとりで餌をつまみ始めたら少しずつ明るくし始めましょう。

B. 挿し餌の作り方

(1) パウダーフードを主食とする

- アワ玉は栄養バランスが悪く、カンジダ症にもなりやすいので推奨されません。
- すでにアワ玉に慣れてしまっている場合には、パウダーを少量ずつ加えて慣らしていきます。
- 幼いうちは出来ればパウダーフードのみにしましょう。

(2) 挿し餌に 60℃以上の熱をかけない！

- 60℃以上の熱をかけると、デンプンが糖化して悪玉菌やカビの栄養源となります。
- 60℃以下のお湯で湯煎しながら温める。煮たり、熱湯を注いだり、電子レンジで温めるのは厳禁！

(3) 挿し餌はなるべく固めで与える！

- 水分過多の餌を与え続けると水中毒になります。
- まず、固めで挿し餌して、食べなければ少し緩くして、食べられるギリギリの固さで与えます。
- そ嚢内で餌が固まってしまったら緩い餌を与えて、固まったエサを揉みほぐして流します。

(4) 挿し餌はよくふやかす

- 15~30分湯煎をしながらよくふやかすと、デンプンの加水分解が進み、消化しやすくなります。

C. 挿し餌の与え方

(1) 挿し餌は 42℃で与える

- 熱すぎて火傷をさせたり、冷たくて体が冷えないよう、必ず温度計で測ってから与えましょう。

(2) 挿し餌はスプーンで与えましょう

- チューブフィーディングは口腔内を怪我したり、病気の発見が遅れたりする原因となることがあるのでやめましょう。

D. 挿し餌の量と回数の決定

(1) 基礎体重を落とさない量と回数を与える！

- ① 朝一番、挿し餌前の体重が基礎体重です。
○これを増やす、あるいは減らさない量と回数を与える必要があります。

(2) そ嚢を触る！

- ① 定期的にそ嚢を触って、空になったらすぐ与える。夜中もそ嚢をチェックします。
○食べさせた量と、そ嚢が空になるまでの時間を計っておくと次のそ嚢チェック時間が予測できます。
○そ嚢が空になっていない場合、欲しがっても与えないでください。食滞の原因になります。
- ② 1回に与える量は、そ嚢の8分目
○消化が悪い、通過が悪い場合は少量・頻回にしてみましょう。
○そ嚢内で餌が固まっていたら、温湯か緩い挿し餌を飲ませて優しく揉んで待ちましょう。

(3) 食べた量を把握する

○挿し餌の直前に体重を測り、挿し餌が終わった後の体重を測ると1回の挿し餌量が出ます。

$$\text{挿し餌前の体重} - \text{挿し餌後の体重} = \text{1回の挿し餌の量}$$

- 1日の最後に、与えた「挿し餌の総量」を求めます。
- 翌日の基礎体重が減っている場合、「挿し餌の総量」が足りていません。
- 回数を増やすか、1回の量を増やすか、餌の濃度を濃くしてみましょう。
- 基礎体重が保てない場合は、病院に相談しましょう！

E. 成鳥へのステップ

(1) ひとり餌への切り替えを急がない！

- 切り替えが遅れると病気になるのは悪いエサを与えている場合のみです。
- 適切な餌が適切に与えられた場合、一生を挿し餌で生活させることも出来ます。
- なかなかひとり餌に切り替わらない場合、病気が原因のこともありますので病院に相談しましょう。

(2) ひとり餌をついばみ始めたら切り替えを始めましょう

- ひな鳥のうちから成鳥用のエサを入れて、見た目にも慣らしておきましょう。
- 1日の挿し餌の量を8～9割に減らします。体重が維持できればさらに減らします。
- 体重が減ったら挿し餌を増やします。体重が戻ったらまた挿し餌を減らします。
- 挿し餌を与えないで体重が維持出来たらひとり餌になった証拠です。

(3) ケージはひとり餌に切り替わってから！

- ① 完全にひとり餌になったらケージで短時間遊ばせ始めましょう。まだ完全に移さないでください。
○楽しそうにしている、慣れないところで遊んでいると疲れて免疫力が落ちてしまうからです。
- ② 遊ばせる時間を、半日、1日と徐々に長くしてケージに慣らしていきます。
○体重が落ちてしまったら、体重が元に戻るまで育雛箱での生活に戻します。

